

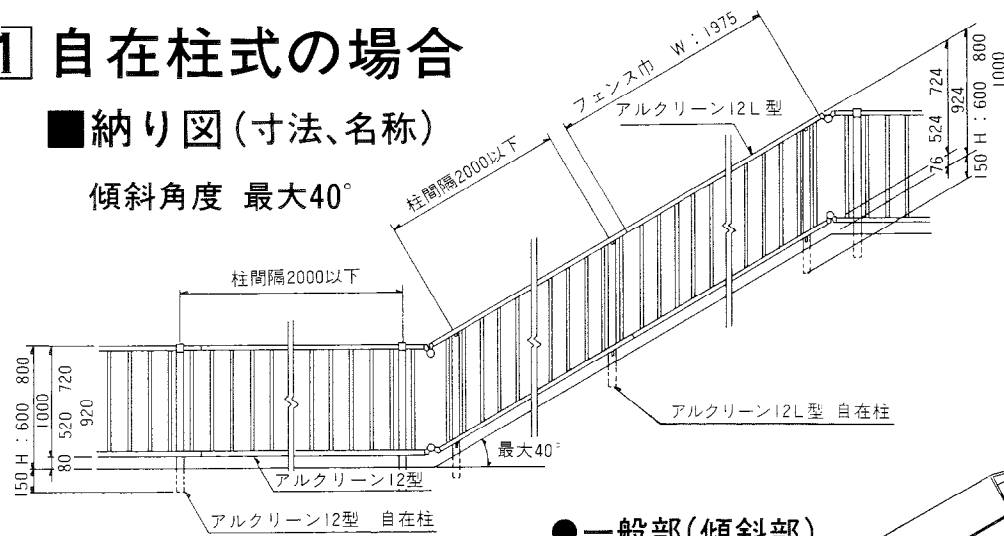
新日軽フェンス取付説明書

《アルクリーン12L型》

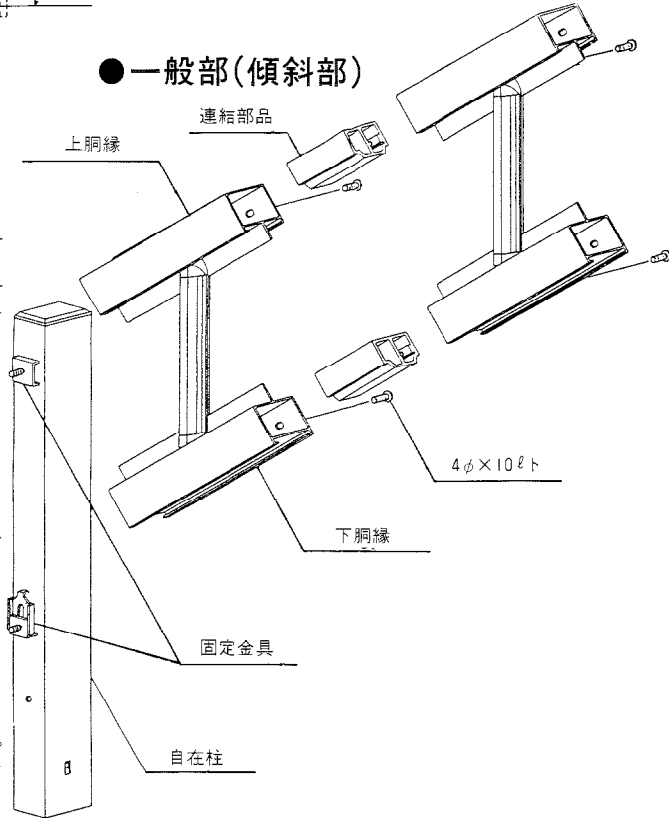
1 自在柱式の場合

■納り図(寸法、名称)

傾斜角度 最大40°



●一般部(傾斜部)



■取付方法

- アルクリーン12L型は勾配部及び水平部どちらにも使用できます。
- アルクリーン12L型(勾配部)と12型(水平部専用)は傾斜ヒンジを使用して接続できます。

1. 一般部(水平部)

- ①柱を2000mm以内の間隔でブロックの穴に建て込んでください。(その場合、柱はフェンス本体連結部から300mm以内になるように建て込んでください。)
- ②フェンス本体を必要な角度に傾斜させた後、連結部品で連結しながら固定金具で柱とフェンス本体を固定してください。(固定金具はフェンスを乗せる前にあらかじめビスをゆるめておいてください。)
- ③フェンスを組立てた後、フェンスの通りを確認し、柱をモルタルで固定してください。

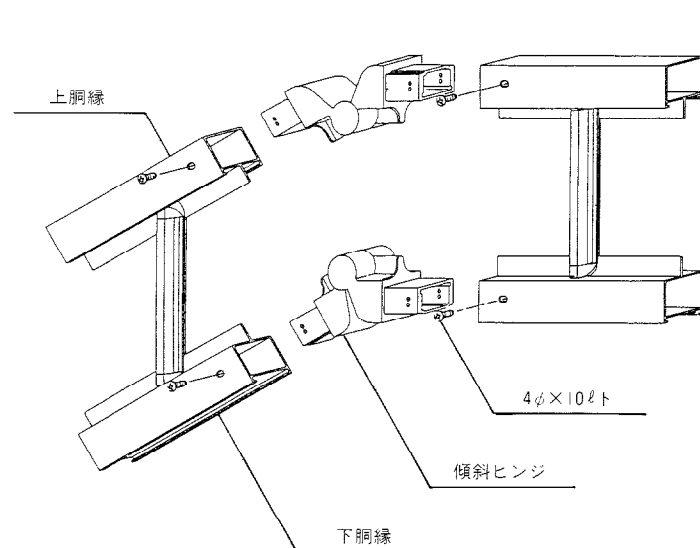
2. 角度変換部

角度変換部は柱2本建てとし、傾斜ヒンジを取付けてください。この場合、格子間隔は現場合せの上、胴縁を切り詰めて調整してください。

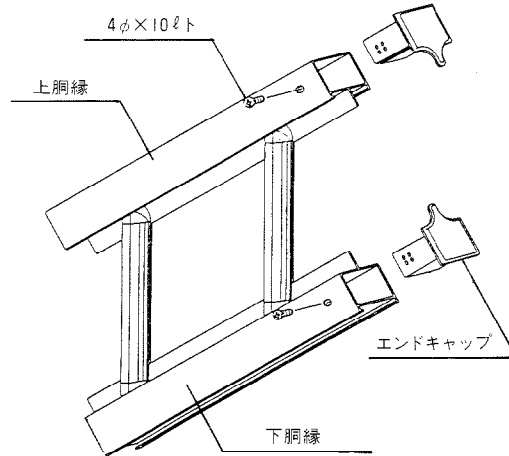
3. エンド部

フェンス端部はエンドキャップを取付けてください。

●角度変換部



●エンド部



■注意事項

新日軽のアルミ製品はJISの表面処理規定を十分クリアーした製品をお届けしていますが、取扱いによっては異状腐食をおこし思わぬトラブルとなりますので、施工にあたっては次のような点に注意してください。

- ①モルタル用に海砂を使用されますと、塩分が多量に含まれていますから腐食の原因になりますのでその使用を避けていただくか、十分水洗いしたものを使用してください。
- ②モルタルやコンクリートの急結剤は腐食の発生や促進作用があるのでその使用を避けていただくか、塩化カルシウムや塩素系の化合物・硫酸ナトリウム等の入っていないものを使用してください。
- ③モルタルやコンクリートの抽出液が工事中にアルミ製品の表面を流れないように注意してください。抽出液は強アルカリ性で、しみやむら等の外観不良や腐食の原因になります。
- ④施工時にアルミ製品の表面に付着したモルタルやコンクリート等は速やかに清掃してください。また、表面にキズをつけますと腐食しやすくなりますので取扱いには十分注意してください。

■取付方法

- アルクリーン12L型は勾配部及び水平部どちらにも使用できます。
- アルクリーン12L型(勾配部)と12型(水平部専用)は片傾斜間柱を使用して接続できます。

1. 傾斜間柱

- ①柱間の距離は柱中心から中心まで2083mm(斜めの長さ)です。
- ②フェンス本体と柱ブラケットを必要な角度に傾斜させた後、柱ブラケットにフェンスを差し込み、ブラケットカバーと共にビス(4φ×10ℓt)で止めてください。この時ブラケットカバーは柱に接触するように取付けて下さい。ブラケットカバーがブラケットよりはみ出す場合は現物合せにてブラケットカバーを切断してください。
- ③1スパン組立てましたら、順次フェンスと柱を②と同じ要領で組立てます。
- ④フェンス全体を組立てた後、フェンスの通りを確認し、柱をモルタルで固定してください。

2. 角度可変間柱

傾斜角度が変わる場合に使用します。取付方法は傾斜間柱と同じです。

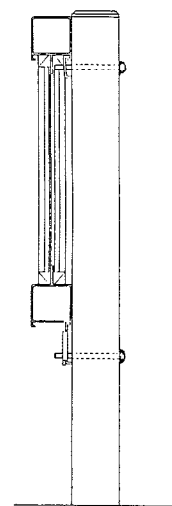
3. 片傾斜間柱

傾斜部(上り又は下り)から水平部に変わる場合に使用します。

3. 傾斜端柱

傾斜部端部に使用します。

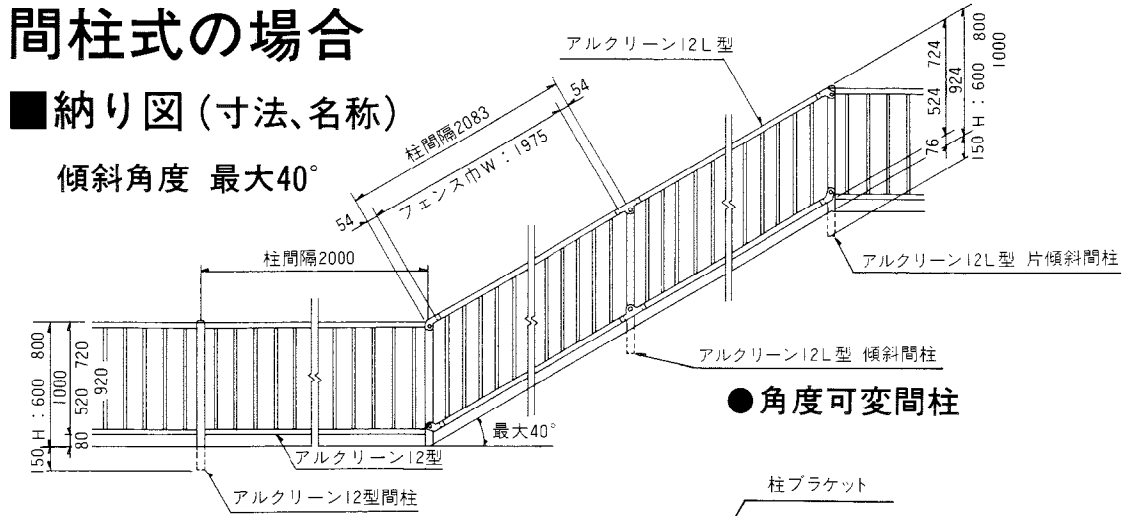
●支柱取付部



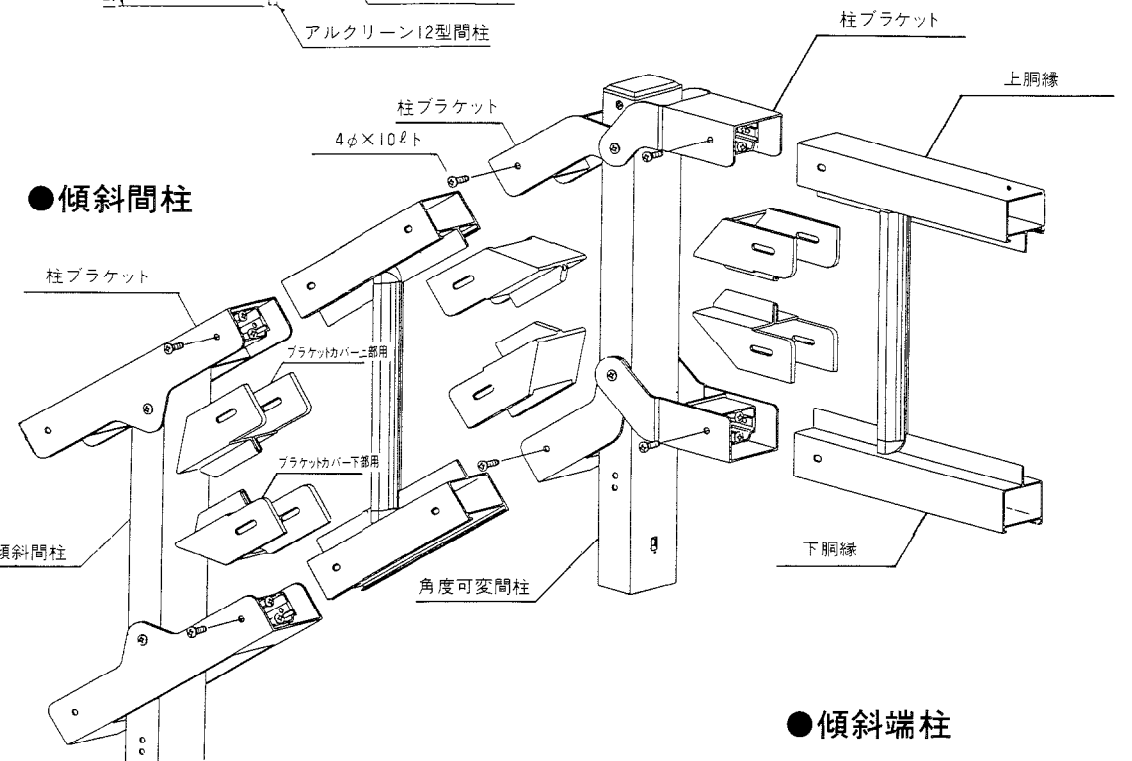
2 間柱式の場合

■納り図(寸法、名称)

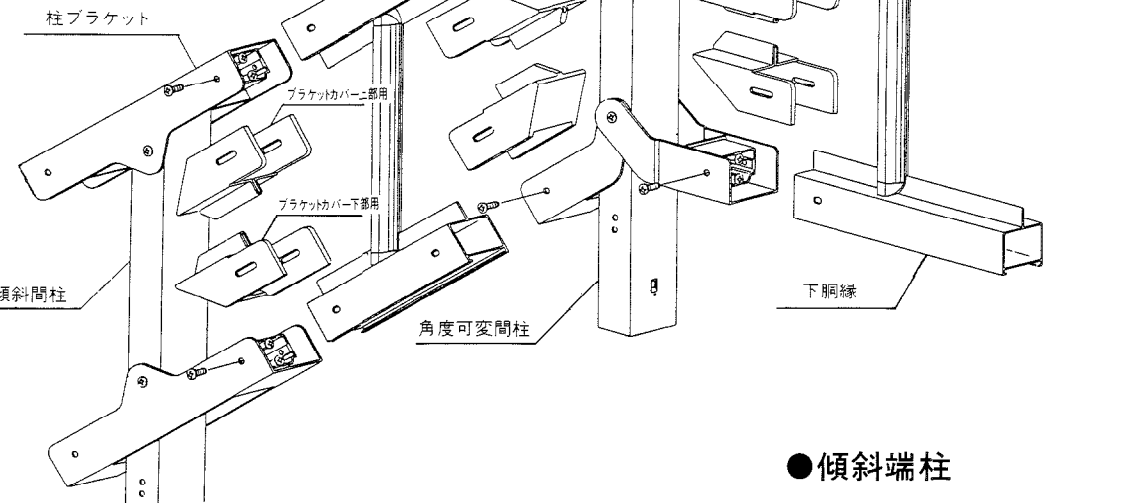
傾斜角度 最大40°



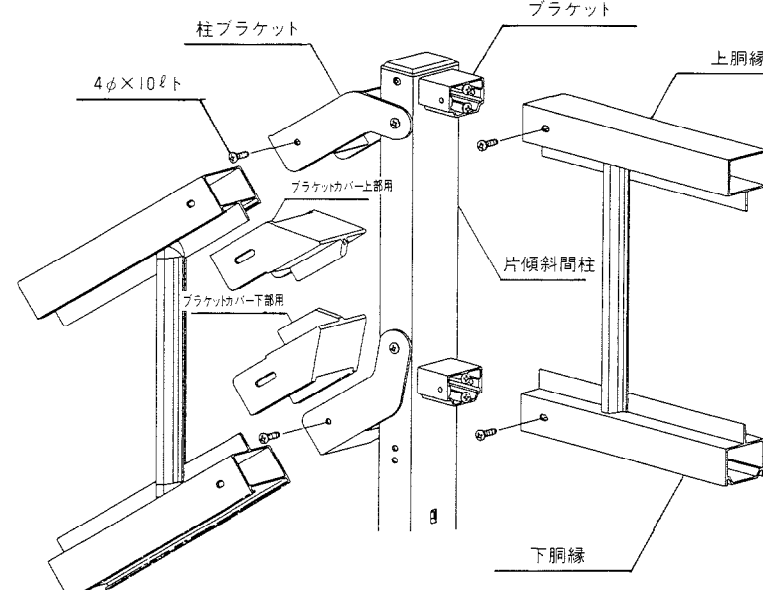
●角度可変間柱



●傾斜間柱



●片傾斜間柱



●傾斜端柱

